

■受験アドバイス

4月に入ります。いよいよ直前期に突入ですよ！皆さん、一気に合格へ直進です。

5月は全国公開模擬試験が迫っています。日頃の鍛錬??が試される日が近づいてきました。わくわく、ドキドキですね。仕事と勉強の両立で苦戦していると思います。あともう少し勉強時間がとれたらと考える時期です。気持ちの焦りと勉強時間の確保が問題となります。ここは踏ん張ってください。

■知識混乱期への対応

4月から6月にかけて多くの受験生は知識の大混乱期に入ります。この混乱はどの受験生も体験します。受験生の誰もが通る道です。各科目で法律の立法趣旨が異なるため、似ているようで違う文章に戸惑います。今のうちから少しずつ科目の横断を意識してください。

■模擬試験の使い方

5月の模試

社会保険法（健保、国年、厚年）を中心に学習して試験に臨みましょう。

通則、時効、不服、雑則は後回しです。7月の模試でまとめましょう。

労働法は現在の知識でそのまま受けてください。

6月の模試

労働法（労基、労災、雇用）です。労一の判例の勉強もしましょう。

7月の模試

3回目の模試は総まとめです。横断科目である、通則、時効、雑則等に時間をかけます。

労働、社会保険ともに基本に戻ります。

★模擬試験の活用方法

3回とも択一目標は45点です。大事なことは、正答率が発表されたら必ず自分の答案と比べること。勘違い問題や、読み間違い問題をあとで確認する。そして時間配分にも注意する。すべては本試験に向けての練習です。

★点数を取りに行く

これからは、何度も「点数を取りに行く」という言葉を使います。いよいよ本試験の足音が「合格するぞ!!」と聞こえてきます。ここからが勝負です。実戦答練で、あれ??と気持ちが落ちた方。心配しないで60%出来ていれば大丈夫。過去問も含めた問題演習に多くの時間を使いましょう。解いていると意味もわかる。点数の取り方もわかる。全部暗記なんて無理。合格点を獲れば良いのです。これからの学習時間は、「点数を取りに行く」勉強です。よく間違える。基本問題を間違える。なにが答えなのか。なにをやれば点数に結び付くのか。ここがポイントです。講義では結構自由に発言しています。「厚生年金??

一部繰り上げ捨てる。」数々の過激な言葉使っています。でも賢明な塾の皆さんは私の意図することを理解していただけたと思います。基本問題で択一は取れます。オプション講座の「100の法則」「1.2.3」でこれを活用してください。本論で全体を講義して「1.2.3」で出題可能性の高い箇所を網をかけ、「100の法則」で点数を取るという作戦です。

■選択式対策

択一学習がある程度進むと気になるのが選択式です。選択式は、知らない箇所が出たらどうでしょうか？受験生の多くは不安で仕方がありません。「なにこれ」と唸る問題が毎年2問出ます。テキストにない！！山下は話していなし！！これを「悲鳴問題」と呼びましょう。でも試験会場の皆さんが同じ気持ちで受けています。この難問奇問の問題は2点取れば合格です。

★まずは語群の整理

最近の選択式は例えば

保険給付 1 (A) (B)

時効 2 (C)

雑則 3 (D) (E)

と3つの内容を組み合わせる問題が多い。そこで

選択式の問題は、まず問題文を読む前に「語群の整理」から始めましょう。

20の用語・数字・行政等を最初に確認整理します。問題によってはこの段階で答えが解ることもあります。しっかりと語群の用語や数字を確認して文章に進みましょう。

このやり方は山下クラス独自の方法ですが、多くの合格者から高い評価を受けています。

■ここから勝負

数字はこの時期で一気に詰め込む・・・・・・・・数字等はこの時期から暗記に入ります。

暗記力を伸ばすために何をしていますか？

忘れたら覚えの繰り返しを本気で頑張るだけでいい！

■サンドイッチ学習

1日に2科目をやる。朝の電車は労災。帰りは国年。1日に異なる科目をやる科目間の違いや用語にも慣れ本番の試験向きの頭ができます。

■1日10分で2問の過去問。

■暗記の仕方・・・繰り返すこと

例えば10の暗記をする場合、1日を使い時間をずらして3回同じことを暗記する。

次の日に新しい10個と昨日暗記した内容を再度暗記する。繰り返す。3日後検証する。

暗記できたものは省き、残りを再度暗記する。この方式で、かなり記憶に定着できる。

短期で記憶した内容を長期記憶に移行する。

■間違える箇所はいつも同じである。

問題演習では2つに答えが絞れる。この問題に注意する。自分の知識と解答力が試されています。この2つの問題に注意してください。2つとも押さえます。

■過去問は答えから見る

直前3月の勉強方法です。本来は各科目を学習した上で問題集にあたり、間違えた箇所をチェックするのが本道でしょう。しかし、限られた時間の中で最も効率的に点数を取りに行くのであれば、答えと引っかけパターンの学習も大切ではないでしょうか。問題内容は後回しで、先に過去問の答えを見るのです。相手の手をみれば戦法は変わります。

■やってはいけないこと・・・1月前に新しい知識を詰め込もうとすることです。

あれもやっていない、これも分からないと不安と焦りで自滅するパターンが多い。受験勉強は基礎の反復が大事なので、今までやってきた問題集を入試直前まで繰り返し復習することは大変意味があります。焦って詰め込んでも、本試験では却って邪魔な知識になります。あやふやな知識が邪魔をして混乱します。

テキストや問題集を今までの50%の時間で読み解く。どんどん復習する時間を短くする。これで仕上げの勉強スタイルが完成する。50%で読んだ問題を今度は30%で読む。この方法で学習を進めると問題のポイントが見える。内容は複雑だが点数の落とし所はどこかも見える。何を問われているのかが理解できると問題の解答パターンが身に付く。今まで頭の中でバラバラだった知識が問題を解き続けることで体系的に整理される。その結果、知識の整理が頭で始まり、点数が伸びるようになる。今まで分からなかった内容が突然分かるようになるのは訓練の結果です。

■精神的にタフであれ

試験は神経戦でもある。今までの知識で大丈夫と方針を変えない。直前期には、今までやってきた自分の勉強方法や私を信頼して、書き込みを入れた基本書、過去問集を何度も何度も繰り返す。労務士試験の範囲は広い。これを全部理解するのは不可能である。でも焦る。直前期は試験に自信を持つことです。直前期に冷静にやるべき範囲を勉強できるかどうか合否を分ける。

皆さん！山下道場で一気に仕上げに入りましょう。